

現代ロシア論 第二回 4・26

2007年8月7日

23:26

Copyright : Takumin



現代ロシア...

・ 前回の補足：日露戦争の敗北で生まれた憲法体制と国会（ドゥーマ）

補足：憲法・国会（ドゥーマ）1906

ツァーリが一部譲歩、**国会**に一部を任せる。何回か国会開くけど、結構対立する。国会って言っても、かなり制限されていた。マックス・ウェーバーが「外見は立憲制」と評する。**革命を見ていたが、その生成された国会システムを見て、外形的な性格しかないということを見抜き、そう評した。チェックアンドバランスなんて性質はなかった。**というかそんな性質を否定さえしていた。

・ テーマ：被支配者の側に蓄積された政治的態度や政治的伝統。

どこの国でも、時代とともに被支配者の政治的意識が変化し、政治権力との関係が注目されるようになる。しかし地域によって、その関係は異なる。

ロシアの独自性（ロシアの場合、1917年まで、民衆とは基本的に農民のこと）今回は被支配者（民衆）の側に立つ。政治権力との関係をどう捉えていたのか？

外から見た感じであいまいで、中身が変化してゆく中で出来上がり方とかちゃんと見ていかなければならない。

農奴解放1961年。農民の半数強。当時農民は、贈り物の対象、売買の対象にもなっていた。人頭税の対象になっていたの、負担ばかり。農奴を含む民衆と、政治権力との関係はどうであったか。その前に、**外側からの特徴**って何か？

1. 外部世界との接触の少なさ。ヨーロッパからの文化の流入を妨げた貧弱な交通手段。貴族にのみ開かれた西欧文化。農奴解放（1961年）までは人口

の40%程度が農奴で、地主の土地から離れられなかった。
一番の特徴は、**外部との接触の少なさ**。日本の鎖国体制とちょっと似てる。地理的条件によって、ヨーロッパとの距離を改善できない。鉄道は19世紀半ば過ぎだし、道路の状況も悪い。そうすると、**地理的環境が壁となり、鎖国状態に近いものとなる。上層部の人間はヨーロッパに行けるので影響を受けやすく、欧化していった。一方民衆というのはほとんど接しないので、興味さえ持たなかった。日本の一般的な民衆がヨーロッパに触れることなかったのと結構似てる。上のほうが知っていて、下のほうは知らない。これが第二の特徴。**

2. 都市部と異なる文化的環境。1870年代の社会運動の挫折。それでも都市に行くことができるか、読み書きができるかで、民衆の文化的環境は変わる。

ブナロード、学生が農民と結託して、状況の改善を図ろうとする運動。両者は異なる文化の中に住んでいた。しかし、固定的ではなく、少しずつ変わっていく。都市に行くことのできる人たちが、読み書きができる人たちは違う。少しは状況を知ることができる。そこで初めて都市と農村との境目がなくなる。もうやだ。。。。

とりあえずレジュメでも何とかなるっしょ。

・ 人口1000人当りの小・中学校生徒の人数

	1840年	1860年	1890年	1914年	1920年	1930年
ロシア	5	13	21	59	75	113
オーストリア	70	89	136	143	142	129
イギリス	78	・ ・ ・	132	152	151	137
ドイツ	113	151	156	175	161	132
アメリカ	74	90	231	213	220	232
フランス	85	108	149	148	121	121
日本	・ ・ ・	38	78	146	164	173

ミローノフ『ロシア社会史』2、384

「農民は急いで都市に追随しようとはしなかった。彼らはまだ古い習慣の中に生きていた。都市と農村の差は経済面であるばかりか、心理面でも、さらに言語の面においてすら存在した。文化的都市層は農村の言葉をあまりよく理解せず、拒否した。他方で農村は、都市の文化的言語を理解するのを止めた。・・・こうして二つの文化、都市と農村のまったく異なる世界の文化が生まれた。都市はヨーロッパの世界に似通っており、農村はビョートル大帝の時から1860年代の]改革の時まであった世界と違わなかった。」（ミローノフ1、337-338）。

3. 農村共同体は、農奴解放後に自治的単位（村団）として再編されたことにより、農民独自の政治的行動様式や政治的意識を生み出す土壌となった。

・ 彼らの政治的意識の一端はことわざから読み取れる。

「土地は神様のもの、耕す者のもの」「カラーチ（パン）を食べたい者は、暖炉の傍に座ってはいけません」。他方で、「共同体とけんかするものではない」「すべては一人のため、一人はすべてのため」という伝統的価値観も。

・ 農村共同体は、伝統的因習によって農民の行動を抑制する一方で、「正義」「公正」「善」などの観念を保持する基盤としても機能した。今日も同じか？

貼り付け元 <<file:///H:/授業/ノート2年生/現代ロシア論/現代ロシア論4・26.doc>>